

パラリンピックが始まりましたね！オリンピックに負けず劣らず熱い熱戦が繰り広げられています。障がいがある人がスポーツをするのは私たちが思っている以上に大変なこと。この本を読んでそう思いました。けれどもその大変さがあるからこそ、スポーツの素晴らしさを私たち以上に感じることもできるのかもしれないとも。

『伴走者たち』 ドキュメント・ユニバーサルデザイン

星野 恭子 著 大日本図書 2008年 1680円 ノンフィクション

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★☆
高校★★☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「伴走」って聞いたことがありますか？一人では走れない人のために一緒に走る事を伴走といいます。例えば目の見えない人は自分が走っている状況がわかりません。耳の聞こえない人もそうです。目が見えず、耳も聞こえない人もいます。自閉症の人はスタートからまっすぐゴールまで行くことがむずかしく、怪我などで義足を使っている人もいます。「走る」ことがすぐにできてしまう私たちには想像できないほど、障がいのある人にとって「走る」ということは難しく、その分憧れでもあるのです。「風をきって走る」。この素晴らしい体験をお手伝いする伴走者たち。この本で紹介されている数々のエピソードは、私たちに新たな世界を広げてくれるとともに、「走る」ことの感動も与えてくれます。

<子どもに手渡すときのポイント>

ノンフィクションの本というのは、子どもたちがなかなか手に触れる機会がないものです。けれども本当の事というのは、素晴らしい物語に負けず劣らず子どもたちの心に大きな恵みをもたらしてくれます。物語に興味がないからと本から遠ざかっている子どもにも本に触れる機会となってくれるでしょう。子ども向けに書かれた本ですが、大人の私たちがさえ知らない事がたくさん紹介されています。そういった意味で中学生、高校生でも読むと発見のある1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。